

## 古代人の生活に触れる

目的 遠い昔の古代生活を体験し、自然とともに生きることを学ぶ。

日時 20\*\*年11月～翌年12月 第2土曜 午前9時～11時半

場所 藤枝市助宗・さんかく山頂上

第1回 11月24日、たて穴掘り。地元農家のOさんがユンボで協力頂き、みんなは鍬やショベルで、直径約2m、深さ約70cmの穴を掘る。Oさん、助かりました。

第2回 12月8日、かや（ススキ）刈り。最初危なっかしいカマ使いでひやひやでしたが、要領を得始め、みんなで何とか刈り取りました。

第3回 翌年1月26日、目柱・梁用の竹切り出し。みんな、のこぎり使いはなかなかでした。ナタの背での枝落としを教えると、みんなすぐ覚えました。

第4、5、6回 2月9、23日、3月9日 支え柱を立て、斜め材を組み始めました。設計図を見ながら、縄で縛って組み立てる。小学生の参加者は力が弱く、ここは大学生スタッフに大分手伝ってもらいました。つまの煙抜けの枠（入口の上）も作る。

第7、8回 4月13日、5月11日 遂に茅を葺き始めました。4等分に割り節を取った竹で茅を内と外で挟んで縄で縛る。中の子と外の子が声を出し合って縄を通して内側で縛る。ここも大学生スタッフの力を頼む。茅が足りず、2日間で半分もできず、しかも屋根が薄い。設計図の確認と屋根材（茅）確保の模索、また雨天にも遭い、6～9月はお休みしました。

第9回 10月26日山梨県上九一色村に、参加者5名を乗せ、茅刈りに行ってきました。たて穴式住居があります地元・藤枝市助宗の苺農家・Hさんが、トラック・草刈り器持参で参加頂き、屋根葺きに十分な量の茅（ススキ）を刈ってきました。Hさんは夏、冷涼な気候の山梨県上九一色村で苺の苗を育て、温暖な藤枝に移して苺を成長させ、クリスマスケーキ用の苺を始め様々な用途の苺として出荷しています。そのHさんが、茅が群生する土地の所有者に今回の話を頂き、その方のご厚意で今回の茅狩りになりました。Hさん、ありがとうございました。たて穴式住居周辺の茅も、更にOさんが刈って頂きました。Oさん、ありがとうございました。そして、いよいよ次回なたて穴式住居の完成&体験宿泊です。

第10回 11月3、4日（日・祝、1泊2日）

3日は9～15時、参加者とそのご父兄、協力者総出で、屋根の茅葺きを行い、遂に完成！

15時半から、屋根の茅葺き・たて穴式住居生活についてのお話を聴かせて頂きました。講師：日本歴史学協会会員・M. I. 氏。

参加者（小学生）2名は、都合で宿泊には参加できず、帰宅。

17時から、夕食作りとバクテリア生ゴミ処理器作り体験をしました。指導：いなばを守る女性ネットワーク会員・O. T. さん。

19時半から、たて穴式住居で交流会。小学生3名とリーダーM君と私で、たて穴式住居の

夜を過ごす。ちょっと寒かったですが、多めに持ってきた毛布に包まり、あったかいココアやお茶、\*\*\*で暖を取り、マシュマロ焼きや菓子を食べながら、古代人の生活に思いを寄せました。

22時には、疲れもあって全員就寝。

翌朝、鳥のさえずりと共に、みんな目が覚め、飯ごうご飯とインスタント味噌汁、炭火でアジのひらきを焼き、朝食を取りました。

8時頃、参加者のご父兄のお迎えで解散しました。

うっかりみんなに感想文を書いてもらうのを忘れちゃいました。

\*3日間の屋根葺きには、参加者5名の他、大学生スタッフや参加者のご父兄、地元の農家の方々がお手伝いして頂きました。本当にありがとうございました。



\*9月12日付け「静岡リビング」トップページに掲載されました。

\*11月3,4日の1泊2日古代体験の様子が、11月5日付け静岡新聞朝刊第16面にカラー写真入りで紹介されました。

両社様、ご協力ありがとうございました。

作ったたて穴式住居はその後、毎月1回は活用しましたが、風雨に晒され傷み始め、1年ほどで壊しました。

この年の前年、アクティ森で陶芸用の土を譲って頂き、瀬戸川で縄文時代のやり方・野焼きで、皿や壺作り体験をしました。火が消え早速灰を払って覗くと、見事に割れた皿に壺が。みんな、とても残念がりましたが、気を取り直して、今回のたて穴式住居作りの挑戦になりました次第です。

子ども達の挑戦は、まだ続く。次は、「おれっちの砦（ツリーハウス）」作り。